

【ご参考資料】

2015年1月15日
野村アセットマネジメント株式会社

1月15日発表のインドの政策金利の引き下げについて

政策金利を8.0%から7.75%に引き下げ

インド準備銀行(中央銀行)は1月15日に臨時の金融政策決定会合を開催し、政策金利であるレポレート(中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利)を0.25%引き下げ年率7.75%に、リバースレポレート(中央銀行が市中銀行から資金を吸収する際の金利)を0.25%引き下げ年率6.75%とすることを決定しました。同国経済の成長回復支援を目的としたもので、2013年5月以来の利下げとなります。

今週発表された昨年11月の鉱工業生産指数では国内経済の堅調さが示されたものの、昨年12月の消費者物価指数および卸売物価指数上昇率は市場予想を下回っていることから、市場では利下げを予想する声がありました。ただし、2月の金融政策決定会合を待たずに発表したことで、市場では驚きをもって受け止められました。

利下げ発表後の日本時間15時現在、インドルピーは上昇し、対米ドルで前日比0.6%、対円で同1.3%のインドルピー高で推移しています。

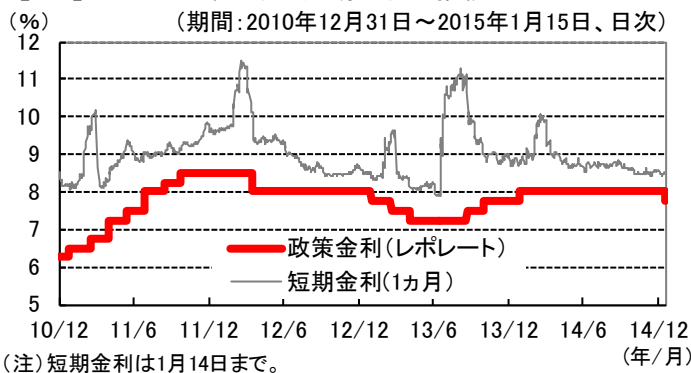
インフレ減速により今後も緩和的なスタンスに

このタイミングでの利下げは市場ではほとんど予想されていませんでしたが、昨年12月の金融政策決定会合後の声明では、「インフレの減速と堅調な財政状況があれば、金融政策決定会合以外のタイミングを含めて、2015年初めに金融政策姿勢を変更する公算は大きい」としていました。インフレ抑制および財政赤字縮小の両方において目標達成の確信を深めたことが、今回の決定につながったと見られています。

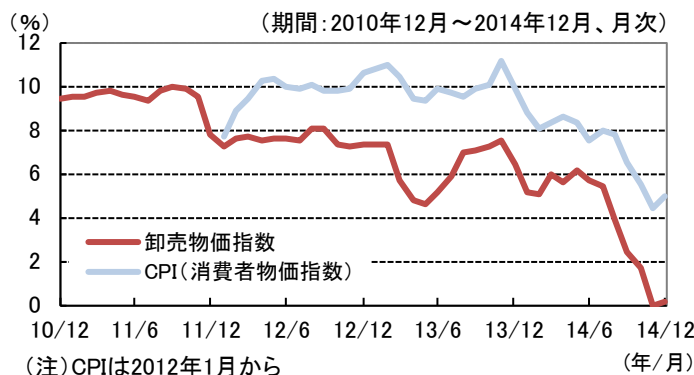
同中銀では声明文において、今後の政策スタンスも同様に緩和方向であり、更なるインフレ減速のデータが揃えば利下げが継続されるとしています。

次回の金融政策決定会合は2015年2月3日の予定です。

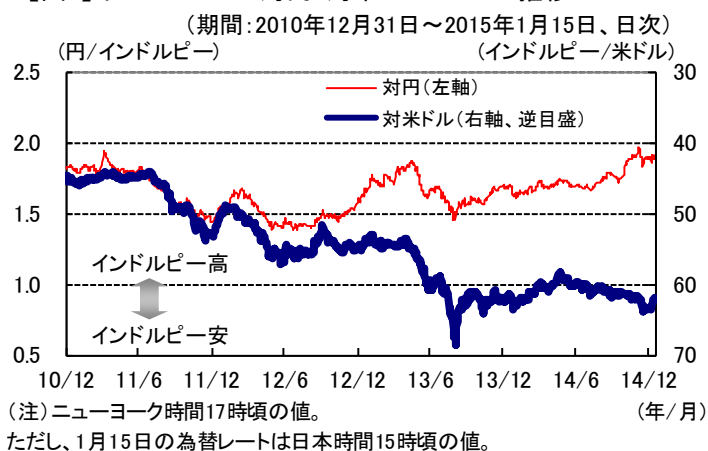
【図1】インドの政策金利と短期金利の推移



【図2】インドの物価指数(前年同月比)の推移



【図3】インドルピーの対円・対米ドルレートの推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。